

# 2019 年度事業報告

2019 年 4 月 1 日から

2020 年 3 月 31 日まで

公益財団法人味の素ファンデーション

## I. 基本方針

- (1) 広く社会の賛同と協力を得ながら、食を通じた栄養改善に関する事業を通じて、わが国はもとより世界各国の重要な社会的課題の解決に寄与する。
- (2) この法人の管理運営の基盤を確立、継続して強化する。

## II. 個別公益目的事業

### 1. 被災地復興応援 健康・栄養セミナー事業

#### (1) 事業目的

東日本大震災の被災地である東北3県をはじめとした被災地において、幅広く様々な環境や年齢の方を対象として、本法人が有する食と栄養の知見を基盤とした情報提供や参加型の健康・栄養セミナーの提供を通じて、被災住民の健康の向上と災害により分断されたコミュニティの再興を目的とする。

#### (2) 年度方針

- 1) 東北3県において、従来の直接支援型の健康・栄養セミナーを2019年度末まで継続しながら、間接支援型のセミナーへのシフトを促進する。コミュニティの自立支援の一環として、本法人の現地駐在員が直接的に参加しないでも、現地NPO法人や地域の自治会などの団体が、継続的に自主開催することが可能になるよう、運営ノウハウを継承し、実施を促進する。自主開催団体に対し、本法人はメニュー・レシピを開発・提供し、必要に応じて器材提供などを行う。
- 2) 東北での活動を通じて得られた知見・ノウハウおよびネットワークを活かし、また外部の専門家なども巻き込みながら、8年間の学びを体系化してまとめ、各地の減災準備や新規の激甚災害発生時における食と栄養支援に使える状態を目指す。

#### (3) 事業報告：

##### 1) セミナー数値目標と実績

- (a) 2019年度セミナー合計目標開催数345回に対して、340回（のべ参加住民数5,376名）。新型コロナウイルス拡散防止のため、2月最終週から3月末までセミナーは中止としたため、開催回数は未達となった。この内、一般向け健康・栄養セミナーは開催目標303回に対し、実績276回、男性向け健康・栄養セミナー「男の料理教室」は開催目標25回に対し、実績48回、幼児向け健康・栄養セミナー「あじのひみつ授業」は開催目標17回に対し、実績16回であった。

\*2011年10月からの通算開催3,771回、のべ参加住民数54,434名となった。

- (b) すべての地元パートナーに自主開催によるセミナー継続の働きかけを実施し、2019年度自主開催は94回開催された。また2020年度以降継続を予定しているパートナー数は40団体まで拡大した（2019年度期初：16団体）。

##### 2) 活動の体系化と活用

- (a) 住民の方々への傾聴活動を行い、発災以降の食と栄養にまつわる課題や、本法人のセミナー活動の評価に繋がる機会と課題を抽出した。本法人の委員をはじめ、「災害・防災」と「食と栄養」に関わる専門家と共に結果を解析し、体系的にまとめるプロジェクトを開始した。陸前高田でフィールド活動経験のある帝京大学の准教授を中心に社会福祉協議会や食生活改善推進員、NPOなどこれまでのセミナー開催・運営パートナーへのヒアリングやアンケートを実施した（2020年2月末時点でアンケート287名、インタビュー20名）。3月は新型コロナウイルス拡散防止のため一旦休止した。
- (b) 災害時における食・栄養の課題について防災・減災関係者の認知・理解促進を図ることを目的に、以下の場での情報発信を企画、運営支援した。

- a) 2019年5月 第4回災害時の連携を考える全国フォーラム  
主催：（特非）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク  
テーマ：“いざ”という時どうなる？ あなたの食と栄養
- b) 2019年10月 第4回 ぼうさいこくたい（防災推進国民大会）  
主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議  
テーマ：“いざ”という時どうなる？ あなたの食と栄養 vol.2
- c) 2020年2月 第25回災害医学会総会・学術集会  
主催：（一財）災害医学会  
テーマ：災害時の健康被害を未然に防ごう！～災害時の食と栄養

(4) 2019年度費用予算と実績：

- 1) 予算：合計 97 百万円
  - (a) 事業費 76 百万円（セミナー69 百万円、活動費 7 百万円）
  - (b) 人件費など 21 百万円
- 2) 実績：合計 92 百万円
  - (a) 事業費 74 百万円（セミナー68 百万円、活動費 5 百万円）：対予算 97%となった
  - (b) 人件費など 18 百万円
  - (c) 対予算差異の主要因は、新型コロナウイルス拡散防止のため、3 月のセミナー開催を中止とし、出張費用などが未使用となったため。

## 2. 低所得国栄養改善事業（ガーナ栄養改善プロジェクト（\*GNIP））

### \*GNIP : Ghana Nutrition Improvement Project

(1) 事業目的

西アフリカ・サブサハラ地域ガーナ共和国において、現地の離乳食に不足しがちな栄養素を配合した地元の食生活に適した栄養食品の研究・開発・製造・販売および栄養に関する知識の普及を通して、対象となる母子の栄養改善を実現し、公共の福祉への貢献を目的とする。

(2) 2019 年度方針

受益者拡大およびコストの効率化推進に即した体制へ移行し、これまで構築してきた外部機関とのパートナーシップや、蓄積してきた知見・ノウハウを活用しながら、現地の自立化と持続可能な事業モデルの構築を推進する。

(3) 事業報告

1) 2019 年度数値目標と実績

- (a) 受益者（推計）：目標 2.6 万人に対し、実績 3.7 万人（対目標 142%、対前年 218%）
- (b) 現地販売袋数：目標 0.8 百万袋に対し、実績 1.9 百万袋（対目標 238%、対前年 380%）
- (c) 現地売上：目標 8 百万円に対し、実績 14.1 百万円（対目標 174%、対前年 315%）
- (d) 現地粗利率：目標 8%に対し、実績-6%（対目標未達成、対前年 62%改善）
- (e) 現地企業連結利益：目標-56 百万円に対し、実績-98 百万円（対目標未達成、対前年-30 百万円減益）

## 2) 体制移行の完了

2019年3月に設立されたガーナ NPO 法人（名称：KOKO PLUS FOUNDATION、略称 KPF）へ、これまでの現地プロジェクト主体者であったガーナ大学（UG）から移管し、新体制に基づいた委託先などとの新規契約を締結した。

## 3) 受益者・販売量拡大への取り組み

(a) ガーナ保健省 Ghana Health Service（GHS）との協働活動（保健所等で行う母親向け栄養教育の場で、「KOKO Plus」の普及を合わせて行う）を段階的にエリア拡大した。2020年1月末時点で28郡まで拡大（全国の約1割）。従来の小売店直販からディストリビューター販売へ完全移行し、受益者および販売袋数を大幅増した。

### (b) 国連 WFP との協働

2019年4月より Ashanti 州において最貧層向けの国連 World Food Programme（WFP）のプログラムを活用したプロジェクトに参画し、合わせて学術機関（東京大学）によるモニタリングと効果検証を行った。

(c) 農村エリアにおいて、国際 NGO の CARE が5つの農村で開発した貯蓄貸付組合/女性起業家（VSLA/VBEs）の活動について、CARE の2018年2月の活動満了に伴い、当法人の現地パートナー ESM/EXP 社に仕組みとスタッフを引継ぎ、活動を継続している。

## 4) 現地企業のコスト構造改善

(a) 生産委託先である Yedent 社の「KOKO Plus」製造委託コストについて見直し、2019年度は先ず粗利率の黒字化（18年度-68%→19年度8%）を目指したが、原材料費のコストダウンが積み残しとなり、-6%と目標に届かなかった。

(b) 生産体制の再構築に向け、急激な販売量増に見合った生産性を持つべく政府機関コンサル指導の下、委託先 Yedent 社において2019年10月より KAIZEN 活動を実施し、出来高を向上させた。

(c) 販売体制について、高コストだったこれまでの小売店直販から、ディストリビューターによる販売構成比を徐々に高め、2019年8月以降構成比は100%となり、販売コスト単価の改善を図った。

## 5) 広報

2019年8月横浜で開催されたアフリカ開発会議（TICAD VII）のサイドイベントにステークホルダーである GHS の局長、栄養部長を招聘し、ガーナのオーナーシップによるプロジェクトとして発表。新たな協働パートナーやドナー組織に対しアピールする場が作れた。

## (4) 2019年度費用予算と実績：

### 1) 予算：合計167百万円

(a) 事業費121百万円（製造・販売委託費62百万円、現地事業費42百万円、活動費18百万円）。

(b) 人件費など46百万円

### 2) 実績：合計190百万円

(a) 事業費151百万円（製造・販売委託費90百万円、現地事業費41百万円、活動費20百万円）：対予算125%と超過した

(b) 人件費など39百万円

(c) 対予算差異の主要因は、受益者拡大に伴う販売量が当初予定の2倍強に増えたことで変動費的に必要な現地の販売マーケティングおよび広報費用が大幅に増額となったため。

### 3. 食と栄養支援事業（\*AINプログラム）

#### \*AIN : Ajinomoto Foundation International Program for Nutrition

##### (1) 事業目的

アジア・南米・アフリカ等の低所得国・地域の中で、特に食、栄養、健康に改善すべき課題を抱える地域の方々に対する貢献を趣旨として、優れた着目点や実践能力を有しながら支援や問題解決に向けた事業を実施する団体に対し、資金の助成および持続的な事業推進のためのノウハウの支援を行い、住民の生活の質の向上を通じて公共の福祉への貢献を目的とする。

##### (2) 年度方針

採用団体に対して、当法人の委員等の知見やネットワークを基盤としてノウハウの提供と助言・協議を、採用時、中間報告時、終了前に行い、課題や成果の抽出を行い、支援先団体の持続性をもった事業推進を支援する。

##### (3) 事業報告：

###### 1) 2019 年度助成団体およびプロジェクト

実施国	実施団体	プロジェクト名	期間 (年度)	助成額 百万円/当年度
カンボジア	(特非)SUSU	健康・栄養のための行動変容を促す ライフスキルトレーニング展開事業	2017～ 2019	2.9
ケニア	(特非)HANDS	ケニアのコミュニティで育む幼児の成 長および栄養改善事業	2017～ 2019	2.8
ネパール	NPO 法人 YouME Nepal	標高 2000m ネパール大秘境・コタ ン郡を食で豊かにするプロジェクト	2017～ 2019	3.0
ラオス	(特非)ISAPH	ラオス国農村部食生活改善プロジェ クト	2017～ 2019	2.3
カンボジア	(特非)シェア= 国際保健協力市民の会	子どもの栄養改善 1000 日アプロー チプロジェクト	2018～ 2020	3.0
アフガニス タン	(公社) SVA シャンティ国際ボランティア会	アフガニスタンにおける子どもの食育推 進事業	2018～ 2020	0.6
ガーナ	GIFT(Glasscutter Initiative for Rural Transformation)	ガーナ住民の栄養改善を目指した新 規家畜グラスカッターの飼育事業	2018～ 2020	3.0
カンボジア	(特非)ジャパンハート	こども医療センターにおける給食プロ ジェクト	2019～ 2021	3.0
バングラデ シュ	(特非)アジア砒素ネットワー ク	妊産婦の栄養と健康改善事業	2019～ 2021	3.0
インド	(特非)アーシャ=アジアの農 民と歩む会	北インドと日本をつなぐ食を通した栄 養改善プロジェクト	2019～ 2021	3.0

###### 2) 現地視察モニタリングを実施した。

(a) 2019 年 6 月 カンボジア プレアビヒア州/(特非)シェア=国際保健協力市民の会

(b) 2019 年 10 月 ラオス サイブートン郡/(特非)ISAPH

###### 3) 2018 年度で終了する 4 団体について 2019 年 6 月開催の食と栄養支援委員会において完了報告会を実施し、委員からの助言を得た。（助成期間：2016 年 4 月～2019 年 3 月）

実施国	実施団体	プロジェクト名	助成合計 百万円/3年間
バングラデシュ	(一財)アライアンス・フォーラム財団	食物へのアクセス制限がある塩害地域の子どもの栄養改善プロジェクト	7.8
インド	チーム ピース チャレンジャー	学校給食を通して貧困村の栄養改善を行うプロジェクト	8.5
ミャンマー	(特非)CWS Japan	家庭菜園や小規模家畜飼育の普及を通じた5歳未満児の栄養改善事業	8.3
バングラデシュ	(特非)アジア砒素ネットワーク	思春期女子の栄養改善と健康推進プロジェクト	9.0

4) 2020 年度開始 新規団体選定 (助成期間：2020 年 4 月～2022 年 3 月)

2019 年 8 月ホームページにて公募、9 月末締め切り、10 月書類審査、11 月プレ審査、12 月食と栄養支援委員会開催・団体プレゼン実施・審査、2020 年 1 月以下 4 団体を決定提案した。

実施国	実施団体	プロジェクト名	助成額 百万円/初年度
ケニア	(特非)日本リザルツ	学校を中心とした栄養改善	3.0
インドネシア	(特非)地球の友と歩む会	農村部に暮らす村人と子どものための栄養不足改善	2.8
ウガンダ	(特非)エイズ孤児支援 NGO・PLUS	HIV 陽性者家庭の生活向上・栄養改善のための在来野菜栽培支援	0.6
ネパール	NPO 法人 YouMe Nepal	大秘境コタン郡を食で豊かに! YouMe Village & Khaja プロジェクト	2.0

(4) 2019 年度費用予算と実績：

1) 予算：合計 48 百万円

(a) 事業費 40 百万円 (助成金 27 百万円、活動費 13 百万円)

(b) 人件費など 9 百万円

2) 実績：合計 38 百万円

(a) 事業費 30 百万円 (助成金 27 百万円、活動費 4 百万円)：対予算 76%となった。

(b) 人件費など 8 百万円

(c) 対予算差異の主要因は、新型コロナウイルス拡散防止のため 2-3 月に予定していた現地視察を中止したため。

#### 4. 低所得での栄養士育成プロジェクト（ベトナム栄養士創設支援プロジェクト（\*VINEP））

##### \*VINEP : Vietnam Nutrition System Establishment Project

###### (1) 事業目的

ベトナムにおいて栄養士が職権を認められ、教育や臨床現場に適正に配属される制度を確立し、高所得国で提供されているような栄養教育や栄養バランス食事メニューの開発や提供を通じて国民の衛生と健康向上に貢献することを目的とする。

###### (2) 年度方針

###### 1) 質の高い栄養士の継続的な輩出支援

栄養士養成校において、教員・教科書・実習施設の充実を図り、質の高い栄養士が安定的に輩出されるような環境整備の支援を行う。

###### 2) 栄養士が社会で活躍できるルール、法制度の整備支援

ベトナムの関係官庁や病院、大学関係者への啓発活動を行い、栄養士の育成および病院などの臨床現場での業務標準や配置制度導入の重要性の浸透を促進する。

###### 3) 国際協力に基づく意義のある健康向上プロジェクトとして世界の保健・栄養関係者に積極的に広報する。

###### (3) 事業報告

###### 1) 質の高い栄養士の継続的な輩出支援

(a) 標準栄養教科書シリーズ製作支援、印刷代を補助し、2019 年度新たに 5 巻刊行（累計 11 巻）した。

(b) ベトナム国立栄養研究所（NIN）内の栄養ラボで使用する栄養士用ツールとして業務用体組成計(2 台)、日本のフードサンプル、ベトナム食材カード、遠隔教育ソフトの開発を協賛した。

###### 2) 栄養士が社会で活躍できるルール、法制度の整備支援

(a) 2019 年 11 月ベトナム官・学・医キーパーソン対象の栄養ワークショップ開催（カントー市タイドー大学およびベトナム国家大学ハノイ校）。それぞれ約 200 名の保健省・病院・大学関係者が参加した。

(b) 日本の病院・大学へのベトナム行政担当官の受入研修、病院栄養担当のインターン受入支援について、3 月実施予定していたが、コロナウィルス拡散防止のため一旦中止した。

###### 3) 広報

(a) 11 月実施したワークショップに地元メディアを呼び込み、web 記事を中心にメディア露出が図れた。

(b) ステークホルダーである NIN と共同で 2019 年 6 月アメリカ栄養学会および 8 月アジア栄養学会総会にてポスター発表を行い、外部ドナーや世界の保健・栄養関係者の認知獲得を進めた。

###### (5) 2019 年度費用予算と実績：

###### 1) 予算：合計 29 百万円

(a) 事業費 21 百万円（研修など事業費 18 百万円、活動費 3 百万円）、

(b) 人件費など 8 百万円

###### 2) 実績：合計 22 百万円

(a) 事業費 15 百万円（研修など事業費 13 百万円、活動費 3 百万円）：対予算 73%となった。

(b) 人件費など 7 百万円

(c) 予算に対し実績が減少した主要因は、3 月に予定していたインターンシップなどの研修が新型コロナウィルス拡散防止のため中止したことによる。

以上